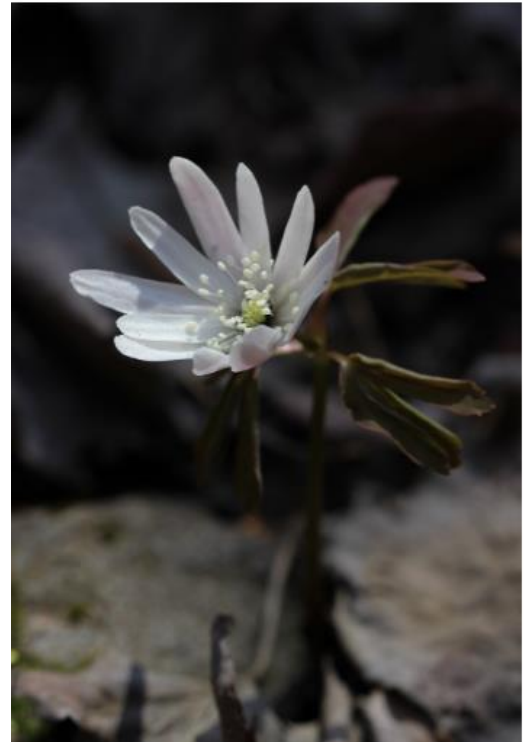




イワウチワ 花言葉：春の使者

撮影 増澤強



アズマイチゲ 花言葉：温和 撮影 本渡康隆

台風19号災害の復旧について

令和元年10月12日から13日にかけて関東地方を襲った台風19号は、記録的な豪雨により東日本を中心に甚大な被害をもたらしました。この豪雨により、奥多摩町の各地で土砂災害が発生し、道路、林道、河川、農地等が甚大な被害を受け、商工業や農林水産業などの産業面にも深刻な影響を及ぼしました。特に、都道204号日原鍾乳洞線(通称：日原街道)の平石橋先の道路崩落により、日原地区が一時、孤立状態となり、6か月が経過した現在においても歩行者用の仮設通路の設置はあるものの車両の通行は未だにできず、地域住民の生活はもとより日原鍾乳洞をはじめとする観光事業者等の経営にも多大な損害をもたらしております。被害に見舞われた地域の皆様には心よりお見舞い申し上げます。なお、崩落箇所の復旧見込みについては、東京都建設局からの情報では、ゴールデンウィーク頃に仮橋が設置され通行止めが解除となり、観光客の皆様も通行が可能となる見込みではありますが、本復旧にはまだまだ時間がかかる予定であり、1日も早い復旧を願っております。また、登山道や遊歩道等についても、路面崩落や土砂崩れ等により現在も通行止めとなっている箇所がありますので、東京都各局のご協力をいただきながら早期復旧に努めてまいります。なお、奥多摩町の登山道状況等につきましては、奥多摩ビジターセンターのホームページで公表されておりますので、登山前には最新の情報をご確認ください。

このように、台風19号災害から6か月が経過した現在においても復旧作業の途中ではありますが、開催を控えた「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」では多くの訪日外国人を含む観光客が東京へ訪れますので、奥多摩町の豊かな自然を満喫していただけるよう早期の復旧に努め、観光協会と連携して奥多摩町の魅力をお伝えしていきたいと考えております。

(奥多摩町観光産業課長 杉山 直也)

奥多摩山歩きワンポイントアドバイス

～登山道の現状把握こそ山登りの基本～

奥多摩に春を告げる一番ツツジが咲き誇り、駅前の大木戸稲荷境内では、今年も盛大に山開き式と登山の安全祈願祭が行われています。

いよいよ登山シーズンの幕開け、そそくさとバスに乗り込むハイカーの皆さんにとって、今年も安全で楽しい山登りが出来る年であって欲しいものです。

I. 奥多摩湖の水の色

さて、今回は昨年秋の台風19号とその降雨に伴う登山道の状況について2～3の事例を紹介し登山計画作成の一助にして戴ければと存じます。

小河内における(1976年の観測開始以来、日最大降水量)

順位	1位	2位	3位
日降水量 最大日	556 mm (2019/10/12)	482 mm (2007/9/6)	347 mm (2001/9/10)

この台風はここ奥多摩の地にかつて例を見ない降水量をもたらしました。その結果次の写真のように奥多摩湖は泥水のままの色で、元の透明な状態に戻るには、更に半年以上を要することでしょう。

(12年前の大雨の後では約1年かかりました。)

ちなみに昨年の上半期(1月～6月)の合計降水量は517mm。これ以上の雨が10月12日の1日間で小河内地区に降ったこととなります。



左は台風19号から4か月を過ぎた今年2月の奥多摩湖面の様子。空の色と湖面の色との対比に着目して下さい。

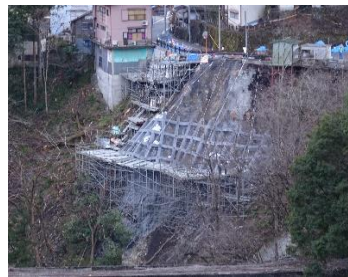
II. 日原川水系の崩壊

また、この台風に伴う洪水により崖崩れが各所で発生し、日原地区への幹線道路では今なお路線バスの運行が出来ない状況です。

栃久保バス停先の根元神社下では、都道の崖崩れによりトラックやバスなどの大型車は、その手前でストップです。

更にその先、大沢と白妙橋の間では、日原川の河床から道路までの土砂が流され、未だに通行できるのは地域住民のみです。この復旧には前述の栃久保先の復旧を待ってから本格的な工事が為される予定で、バスの運行再開は大幅に遅れる模様です。

そこで川苔山方面へのルートとして大丹波川流域から入る林道もありますが、各所で崩落や橋の流出があり、現在のところ鳩の巣からのルートや本仁田山からのルートに限られています。



栃久保バス停先根元神社下の崖崩れ箇所における復旧工事現場。2月中旬南東側の都道から撮影。



大沢バス停～白妙橋バス停間の河床から都道までの崩壊箇所における復旧工事現場。大沢側の都道から日原川の上流に向かって2月中旬撮影。河床から道路迂流されている。

III. 雲取山方面の登山道

日原側からのルートは通行困難につき鴨沢からのルートに絞って一例を挙げておきます。

次の写真は鴨沢ルートのうち七ツ石小屋先の巻道の状況です。



七ツ石小屋先の巻道に入り最初の沢に架けられていた橋が、上流からの土石流により崩壊。1月中旬東側(七ツ石小屋側)から撮影。

この付近の通行は石尾根縦走路(七ツ石小屋上の水場)経由か又は七ツ石山の頂上経由で通行可能です。

まとめ

昨年の台風19号とその降雨に伴う登山道の状況について、事例を紹介しました。崩壊現場における修復の状況等については筆者の主観によるものです。

実際の登山にあたっては奥多摩ビジターセンターや関係機関などに最新情報を確認して計画を立て、安全第一で入山されることを望みます。

(富士 光男)

～ 行って来たあよ ～
No.32「冬の惣岳山・岩茸石山」2月2日

冬の奥多摩もいいね！「高水二山」

2月2日、JR 沢井駅を降り、見上げると快晴の冬空。岩茸石山での大展望に期待が高まります。準備体操をして、まずは惣岳山を目指します。

今回登る沢井コースは、日曜日というのに他の登山客に会うこともなく、とても静か。道も悪くない。奥多摩友の会らしいコース選択で、「これは使える！」と思いました。樹林帯を抜け、広く伐採された地点に到達すると、都心方面の視界が一気に開け、あのスカイツリーも判ります。展望はないものの、神社があって、落ち着いた雰囲気です。

惣岳山からは直下の岩場を注意して下り、本日の最高峰、岩茸石山に向かいます。ちょうど昼頃に到着し、各自食事をとりました。寒いこの時期は、温かいスープやカップ麺が人気のようです。某ガイドが湯を沸かしてくれて、お茶を飲んでいる人達もいました。食後は恒例、ガイドからの山の説明です。筑波山、男体山、伊豆ヶ岳、武甲山、棒ノ折山、川苔山、雲取山、蛭ヶ岳・・・山のオンパレード。期待を裏切らない大展望でした。

お腹を満たし、景色も堪能したら、さあ出発。名坂峠に向けて急坂を下ります。そして、峠から下山口の八桑までが要注意。去年の台風 19 号の爪痕が残っていました。崩れた巻き道、さらには石がゴロゴロ積もった道を足下に注意しながら進みます。林道に出てほっとすると、今度は川井駅までの車道歩き。これが思ったよりも長かった。

それでも山歩きの満足感に浸りつつ歩いていると、漏れ聞こえてくるのは新年度の登山イベントの話。奥多摩湖から三頭山へ、大丹波林道を詰めて川苔山に、雲取山から石尾根を奥多摩駅まで・・・うーん、今年も奥多摩の山三昧になりそうな予感です。ガイドをはじめ、友の会スタッフのみなさん、今年もお世話になります！

会員 雨倉 雅巳

今年は暖冬だと言われながらも寒波が襲ってきたり雪がちらつく日があったりした中、イベント当日は暖かく日差しに恵まれた山日和の一日でした。

行程は沢井駅～惣岳山～岩茸石山(昼食)、下山は名坂峠～八桑～川井駅。岩茸石山へは高水三山コースがポピュラーですが、沢井駅から惣岳山～岩茸石山に登るのは初めてです。こうした普段歩けない登山道を歩くのも奥多摩観光協会のイベントの魅力です。沢井駅を 9:00 に出発して登山口で衣服の調整。そこからの上りはキツイ急登もなく、時期的に花もほとんどお目にかかることもないので、お喋りしながらのんびり歩き。陽だまりハイクを楽しみながら登山者とすれ違うこともなく御嶽駅からの尾根道の合流地点に到着。晴天の日曜日ということもあってここから惣岳山～岩茸石山までの尾根道は沢山の登山者とすれ違いました。途中足を止めてスカイツリー、ビル群など鮮明に見える眺望を楽しみ、又ちょっとキツイ岩の急な下りで汗をかいたり、それなりに山歩きを楽しみながら 12:00 に岩茸石山へ到着。山頂は登山者で賑わっていて、夫々が好きな場所で 360 度の展望を楽しみながら昼食休憩をとりました。ガイドの方が四方の山々を説明して下さり、頷きながらも一時間後にはその名も忘れてしまうであろう年頃で申し訳なく思いつつ、毎回説明に聞き入っています。少しずつ山の名前を覚えたいものです。40 分の昼食休憩をとり 12:40 に下山開始。初めから急な道で 12:55 に名坂峠を通過。道が崩れているような所があり慎重に下りる。沢を横切り水のない沢沿いの道を下りましたが、以前は明瞭でしたが台風の時に崩れたようで、ちょっと歩きにくい道でした。下山後は林道を歩き川井駅に 15:00 に到着。天候に恵まれ春の様な日差しの中の楽しい山歩きでした。ありがとうございました。

会員 小林 春美

奥多摩樹木雑話

～ ヤマザクラを愛す ～

「大和心を人問わば朝日ににおう山桜かな」と言ったのは、江戸の国学者本居宣長。古くは桜というと山桜でした（ソメイヨシノは江戸末期に出た品種）。桜の木の下での若者と天女の交流を美しく謡いあげているのが、謡曲「吉野天人」（見もせぬ人や花の友・・・）。その吉野の桜はすべてが山桜です。一方、春の路傍に咲く野の花の美しさをあげて、その美しさに見向きもせず、ただ咲き誇る桜を賞でそやしている人々に向かって、「何ぞ桜花に狂せんや・・・」（自然と人生）と苦言を呈したのは、明治の文豪徳富蘆花。おそらくその桜は美しさでは桜の代表種ソメイヨシノだったでしょう。

奥多摩の森を歩くと、他の木々のはざまに、紫褐色の樹皮をつややかに見せて生えているヤマザクラを見かけます。その多くは仲間と群れず同ぜずといった感じで剛直な姿で立ち上がっています。

3月に入ると、冬の低温にさらされて生長を抑えていたホルモンが減り始め冬芽の眠りが浅くなってきます。花芽の中では、おしべ、めしべ、花弁などが葉からの分化を終え、葉芽の中では葉の原基が、紫外線に備えて、赤い色素を沈着させて待機しています。この小さなからだの中でおこる生命の営みを知るにつけ、「神は細部に宿りたもう」という言葉を思いだします。やがて春の陽光が当るようになったとたん、若い花や葉の芽が芽鱗を押し開いて飛び出してきます。私はこの時の若い芽が見せる緊張感が好きです。それこそ、まさに Spring（バネ・春）です。

晴れ上がった青天を背景に、乱れ咲く淡紅色の花とつややかな赤褐色の葉がそよぎあうヤマザクラの姿は、病を知らぬ健やかな美しさをこよなく感じさせてくれます。

（橋上 一彦）



奥多摩の野鳥

～ スズメより小さいイワツバメ ～

スズメ目ツバメ科、イワツバメ属 全長 14.5 cm



山岳地帯や海岸などの岩場に巣を作ることが多く夏鳥としてツバメより早く日本列島に渡って来ます。最近では人工物の大きな建物コンクリートの橋などに営巣する事が多く、奥多摩駅周

大澤新次 絵

辺でもよく見かけます。

さすがに街中では見かける機会は少なく多摩川沿いでは、羽村あたりまででしょうか。春、奥多摩駅周辺ではツバメより早く現れ、ジュリリと鳴きながら飛んでいます。上面は黒色下面は白く、尾が長くないのでツバメとの区別はつける事が出来ます。イワツバメはツバメと同じような巣を作りますが家屋の軒下などには営巣しません。最近では平地へ広がって巣を作る事が多くなってきたのでツバメとのなわばり争いが気になります。ツバメとの大きな違いは集団で営巣する事が多く、1つがいの巣を見つけると多くの巣が並んで見られる事があります。

イワツバメは奥多摩湖のコンクリートの建造物に集団で営巣している事が多く、ゆっくりと見る事が出来ます。

私は三鷹に居住していた事がありますが、全くイワツバメを見る機会はなく奥多摩へ来て初めてイワツバメを見る事が出来ました。しかも奥多摩駅前で。彼らも渡って来た早々は餌がよく見つかる河川など水辺で見る事が多いのでぜひ多摩川沿いでゆっくり観察して下さい。そしてツバメとの違いを見分けて頂ければ結構楽しめますよ！

追記 いよいよ奥多摩は夏鳥、留鳥、漂鳥などでにぎわって来ます。野鳥達の子育ても始まりです。みなさん奥多摩で、野鳥、昆虫、樹木、草花のすばらしい自然が楽しめます。ぜひ奥多摩の山地で思う存分その自然を味わって下さい。

（畑 幸夫）

とっておきの山里歩きガイド

「春 野の花・山の花」おすすめ2コース

その1 大丹波川左岸を歩く

今回は、春の花特集です。

ルート、ユリワサビ、クワガタソウ、コチャルメルソウ、アズマイチゲ、エイザンスミレやマルバスマシレなどのスミレ類、等々。このコースは、とにかく春の花満載で大いに楽しめます。

はなっから意味不明の「ルート」ですが、これは、有毒植物です。それでも、物は使いようで毒にも薬にもなる野草です。

早春の芽生え時期になると山菜と間違えて食べる人がいて新聞やテレビで話題になります。

もうお分かりいただけたでしょうか。ナス科のハシリドコロです。



ハシリドコロ

肝心のルートですが、終戦後の話で丹波山村から奥多摩にかけてルート製薬がこの草を買取りに来たので地元の人々は、いい小遣い銭稼

ぎになり、通称「ルート」と呼んでいたそうです。

次に白い可愛らしい花を付ける蔓性のユリワサビは、食べるには忍びないほど小さく、学名にも「wasabi」の文字が入る日本固有種です。

エイザンスミレは、奥多摩でよく見かけますが、



エイザンスミレ

比叡山に由来する名前でヒナスミレと交配したものを「奥多摩スミレ」と呼んでいます、両種が混在している所で探してみてください。

上記の野草たちは、いずれも川井駅から大丹波川を遡って行く左岸の山道に生育していますが、溪流釣り場まで行くと、樹木では、イタヤカエデの緑鮮やかな花と輪光院裏山のミツバツツジの花が見事です。

その2 寸庭橋周辺点描

古里駅からしばらく青梅街道を西に向かい、多摩川方面へ下ります。



サイハイラン

寸庭橋周辺でサイハイラン、ニッコウキスゲ、バイカウツギなどとの出会いが楽しめます。サイハイランは、カ

エデの林の中でひっそりと息を凝らして静かなたたずまいを見せ、まさに戦国武士が采配を振る雰囲気を感じさせてくれます。

ニッコウキスゲは、ゼンテイカ（禅庭花）ともい



ニッコウキスゲ

い、多摩川下流の調布市では、ムサシノキスゲ、秋川の檜原村～あきる野市では、アキガワキスゲの名で親しまれてい

ます。なぜか、オクタマキスゲと呼ばれないのは、残念なことです。PR不足でしょうか。

寸庭橋下の林の中で、これまたひっそりと咲く白い花のバイカウツギ。日陰の花の雰囲気で同情したくなります。

こんな控えめな国産種に比べ、今、世間を騒がせているのは外来植物たち。市街地ならともかく、こ



オオキンケイギク

の奥多摩の山奥まで爆発的かつ侵略的に広がりをみせています。「外来生物法」によれば、寸庭橋付近に生えているオオキンケイギクなどは、真っ先に

駆除すべきです。その他、アメリカオニアザミもするどい棘が問題です。昨年の夏は、寸庭橋際でたくさんの綿毛を飛ばしていました。これ以上奥多摩に外来植物を持ちこませない、持ち込まないようにしたいものです。

(岡崎 学)

「名人・達人観光ガイドの会」ガイド紹介

- ① 氏名 ② 現役時代の仕事または今現在の仕事
③ 出身地 ④ 現住所 ⑤ 趣味、特技 ⑥ ガイドになったきっかけは？ ⑦ 今までガイドをして嬉しかったこと、良かったと思ったこと ⑧ ガイドをする時いつも心がけていること

- ① ^{やまぐち しげき}山口 茂樹 ② (株)三越 ③ 東京都武蔵野市
④ 昭島市 ⑤ ガーデニング(バラ栽培、洋花の寄せ植え)・ルアー&フライフィッシング ⑥ 定年後の余暇に何をしてお過ごしお考えおいたらタイミングよく、読売新聞多摩版に、奥多摩観光協会のガイド募集が飛び込み、奥多摩の大自然に出会いと発見を求めて応募する ⑦ ポテンシャルの高いガイド仲間から多くの知識を得る
⑧ 安全、安心、安息の行動意識を第一に

- ① ^{おかざき さとる}岡崎 学 ② 地方公務員 ③ 東京都
④ 羽村市 ⑤ 植物や野鳥など自然全般と郷土の歴史や民族。最近では秩父、奥多摩の狼の民族探し
⑥ 奥多摩に行く名目になるから ⑦ 奥多摩との出会い、人、地域、空気、みんな好きです ⑧ 自分自身奥多摩のことを知りたいし、参加者にも知ってもらいたい気持ちです

- ① ^{ふじ みつお}富士 光男 ② 公務員(東京都) ③ 四国三郎で産湯を使う ④ 桜百万本の町(日の出町)
⑤ 右足の次に左足を確実に出せること ⑥ 雲取山に50回以上登っていたから ⑦ お客様のお手伝いをしながら健康でいられること ⑧ 短日にランブなしで雲取山の往復ができること

昨年の台風19号が通り過ぎた10月13日、除ヶ沢のわさび田を見に行ったら、金比羅宮の下、山道の中央に人の頭の骨が落ちていました。すぐに警察に連絡、地元の駐在、青梅警察の警察官が5,6名来られて現場検証をしました。

令和2年1月26日、DNA検査の結果、身元が判明し親のもとに帰りました。平成31年1月23日に家を出たまま行方不明の23歳の男性でした。9ヶ月間必死で探したご両親が先日来てくださり、「これでやっと区切りが付きまして」と御礼の言葉を残して帰っていかれました。台風が親子を引き合わせてくれたのですね。

春から夏 奥多摩山歩き

イベント案内 令和2年5月から7月

- No. 5 5月 7日(木) 六ツ石山 トオノクボ、石尾根
No. 6 5月 8日(金) フットパス 海沢散策
No. 7 5月 14日(木) 棒ノ折山 軍畑から川井駅
No. 8 5月 18, 19日(月、火) 雲取山日本百名山
No. 9 5月 21日(木) フットパス山ふる、野鳥観察
No. 10 5月 30日(土) 本仁田山奥多摩駅から鳩ノ巣
No. 11 6月 3日(水) 笠取山 シャクナゲのトンネル
No. 12 6月 8日(月) 大岳山 鋸尾根から御岳山
No. 13 6月 18日(木) 鷹ノ巣山 水根から奥集落へ
No. 14 6月 19日(金) フットパス 峰谷橋から留浦
No. 15 7月 3日(金) 海沢三滝 白丸から奥多摩駅
No. 16 7月 15日(水) 柳沢峠ブナの森
No. 17 7月 22日(水) 大菩薩嶺 日本百名山

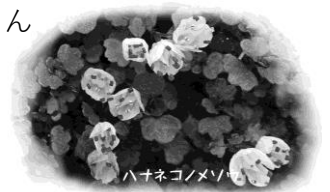
奥多摩ビジターセンターの指定管理者が変わりました。

今まで長い間センター長として活躍されてきた大野 真センター長にメッセージを頂きました。

平素より奥多摩ビジターセンターをご利用いただき、誠にありがとうございます。本施設は、指定管理者として公益財団法人東京都公園協会が管理運営を行い、奥多摩の自然や歴史・文化の案内・解説および安全登山啓発活動を行ってまいりましたが、令和2年4月1日より新たな指定管理者により管理運営を行うことになりました。永らく施設の管理運営ができたことは、皆様方のご理解、ご協力のおかげと深く感謝しております。

私が奥多摩ビジターセンターに赴任して6年間、奥多摩の自然をつぶさに見てきました。四季折々の美しい風景を楽しめる一方、毎年山岳遭難事故が発生しています。奥多摩にお越しの際は、安全に十分気を付けながら、雄大な自然を満喫していただければと存じます。

大野さんはじめ職員の皆さん
長い間お疲れさまでした。
新たにセンターに
こられた皆さん
よろしくお祈りします



(小峰 一郎)

次号発行予定：令和2年7月15日

発行	一般社団法人 奥多摩観光協会
住所	〒198-0212 奥多摩町氷川210
電話	0428-83-2152 FAX 0428-83-2789
編集	名人・達人観光ガイドの会